



以前、私は海外シナ人の反共民主活動に興味を持っていた頃、シナ人民主運動家から日本に対する色々な批判を聞き取った。中でもっとも多い批判は、日本の政治家、メディアの「親支」問題、つまりシナ共産党に寄りすぎることだ。彼らが挙げる例は、NHKの国際放送のラジオ番組は、昔からシナ当局の事前検閲を受けず、そのまま視聴することができる。シナ宣伝部門に特別な優待を受けていたようだ。

さらにNHKが放送する国際ニュースの内容は、シナ国際ラジオ放送局の内容と基本的な差がない。六四天安門事件以降、台湾、米国などのラジオ放送はシナで中止されたが、NHKの放送のみ生き残った。NHKはシナ人の反シナ共産党、民主化運動を支持していないようで、天安門事件にも曖昧な立場。シナ共産党政府に対する批判は一切ない。

日本人の愛国者に「犬HK」「日本反日テレビ局」と呼ばれた日本の国家テレビ局は、確かに彼らが言った通り、一貫して親シナ、シナ共産党のチベット侵略、ウイグルでの核試験、虐殺、様々な人権侵害等を無視し、シナの民主運動への道義の支持すらもない。欧米のメディアではチベット独立運動を紹介、応援する番組特集がよく見られているが、日本のNHKではそのような内容は殆ど見えない。

NHKの得意分野は、自国を貶め、反日特亜国家を賛美する情報の捏造、偏向報道、歴史歪曲。NHKは自国の歴史、日本人の先祖を侮辱するだけではなく、シナ共産党による反日プロパガンダに積極的に協力している。

昨年「正論」12月号に、フランスに住邦人敦子カローさんの寄稿があった。フランスのFRANCE2テレビ局の“APOCALYPSE”という人気のドキュメンタリー番組で、南京大虐殺などの日本軍の残忍非道が描かれた内容を流していたそうだ。

その番組の一部の映像フィルムを提供し、製作に協力したのはNHK。南京大虐殺映像はシナ方面から提供されたという。

敦子カローさんの文によると、シナ大陸で、日本の軍人が住民と思われる女や子供を縛って、生きたまま土に埋めて

ゆく場面など衝撃的な場面が多数ある。彼女のその文を読んだ後、NHKに対する怒りはどうしても抑えることができなかった。日本の国家テレビ局は、敵国の反日プロパガンダに加担し、さらに海外にも広めて行く。NHKは一体どの国のテレビ局だ。

実は昔私がシナにいた頃、初めて見た「南京大虐殺」描いた映画の中で、一番印象が深いのは沢山のシナ人を縛って、生きたまま土に埋めてゆく画面。二十年過ぎてても、頭の中ではっきり残っている。フランスの番組を見ていないが、あの残酷な映像は、シナが製作した映画の中の内容と断定できる。

映画の中の映像を使い、注釈をしないまま、ドキュメンタリー映像として流すのは極めて悪質な印象操作だと思う。フランスは元々左翼色が強い国、歴代の大統領の中で親シナの人もかなり多い。シナに騙されて仕方がないと思うけど、日本のNHKが海外でシナ共産党のプロパガンダに協力する行動は、絶対に許す事できない。

2009年NHKが放送したスペシャル シリーズ第一回「アジアの一等国」では、日台友好関係の分断を画策、悪意に満ちた歪曲 偏向 捏造内容をめぐって、一万人以上の方がNHKを提訴中。NHKが製作した二次世界大戦に関する歴史番組は、特亜の都合による捏造、偏向報道ばかり。

先日「日本人はなぜ戦争へと向かったか」の番組も相変わらず反日特亜国家の歴史観に基づいた内容である。尖閣事件で日本人愛国者が起した大規模デモを放送せず、特亜国家の反日デモが大好き、幾ら人数が少なくても大ニュースとして取り上げる。CCTVの日本支局は、NHK放送センター(東京都渋谷区)の中にあるそうだ。まさかNHKは本当にCCTVの日本支社なのか？

NHKの職員は、我々が払っている受信料のおかげで高い給料を貰い、敵国シナ、朝鮮の反日宣伝を行っていて、一体どんな気持ちなのか？日本人を嘗め過ぎではないのか？どうして多くの日本人はこの売国放送局に対してもっと怒らないのか？私は日本人が本気に怒って、革命でもいい、暴動を起してもいい、反日テレビ局を真っ先に潰してほしい。NHKはシナのメディアになりたいならば、シナに渡ればいい。

犯罪殺人カルト集団シナ共産党の下僕NHKは悪魔の共犯者、人類の敵だ。

